

救命救急の課題について

問 小林 緊急性のない軽傷で救急外来に訪れる、いわゆるコンビニ受診の問題が全国的にある。地域医療崩壊につながりかねないが、本市の取り組みは。

答 全国的な問題ではありませんが、本市としては、ホームページや市報、健康カレンダー等を通し啓発の徹底をしていきたい。

救急医療情報キットを

問 堀口 進捗状況の確認と、キットを学校の協力を得て作成できないか。

答 現在、二市一町及び入間東部地区消防組合で検討中です。導入が決定した場合、キットの作成について学校長と協議していきます。



子宮頸がん検診とHPV検査の併用を

問 伊藤美 併用検診でウイルス・細胞診ともに陰性の場合、三年間受診する必要がなく、受診者のリスクも軽減される。また、早期発見につながり、子宮の温存で出産も可能である。少子化対策や費用対効果の点からも期待できる。本市での実施を。

答 予防と早期発見に有効と思われませんが、国の動向を見て検討していきたい。

障がい者就労支援について

問 田村 市での雇用を促進できないか。

答 雇用については真摯に取り組んでいます。今後、計画的な障がい者の採用を検討します。

精神障がい者関係団体への助成充実を

問 塚越 精神障がい者関係団体への助成充実と地域就労支援施策の展開は。

答 第三期障がい福祉計画の中で、日中活動の場の必要性

を位置づけ、関係団体と一緒に検討していきます。

孤立化への対応

問 堀口 痛ましい事件が相次いでいる。福祉サービスを利用していない障がい者の掌握に努め、民間業者と行政が情報交換するシステムを確立すべきでは。

答 個人情報保護の課題はありますが、命に関わる場合はまず、情報の把握が必要です。関係課が連携して対応していくことを再確認しています。民間業者との情報交換についても研究していきます。



高齢者の見守り支援が望まれる

問 五十嵐 高齢者の孤独死の防止に向けて、単身高齢者世帯の実態を把握し、単身高齢者を一人にしない地域のネットワークを構築する考え

答 単身高齢者の実態把握とネットワーク構築は

単身高齢者の実態把握とネットワーク構築は

問 五十嵐 高齢者の孤独死の防止に向けて、単身高齢者世帯の実態を把握し、単身高齢者を一人にしない地域のネットワークを構築する考え

答 孤独死を防止する方策の一つである高齢者の見守り支援については、地域包括ケアシステムの拡充があります。地域包括支援センターを中心に、高齢者を取り巻く地域のさまざまな社会資源が協働・連携して高齢者を見守り支援する体制づくりを進めます。すべての高齢者が住み慣れた地域で、ともに支え合いながら、孤立感のない地域を目指して、安心して心豊かな生活

を送ることができるよう、ネットワークづくりを進めていきます。

ゲートキーパー養成への考えは

問 五十嵐 自殺のサインを早期に気づくことができる地域・職場・教育の場等における「ゲートキーパー」の養成に取り組む考えは。

答 本年度は、窓口で市民の皆さんに対応する職員を対象に研修会を予定し、順次段階的に養成していく考えです。自殺対策については、自殺対策連絡調整会議を立ち上げ、本年度は市内でのネットワークを強化し、さらに地域へ広げていくよう検討を進めていきたいと考えています。

また、一般市民を対象に、精神科医や臨床心理士の専門家の相談を年四回実施していきます。

※ゲートキーパー…地域や職場、教育等の分野で、自殺のサインに気づき、見守りを行ない、専門相談機関の相談へつなぐ役割が期待される人材。

義務教育における保護者負担の軽減

問 伊藤初 就学援助金の支給時期を早められないか。

答 基本的な考え方として前払いは行なっていないません。しかし、学用品費や修学旅行費などについて、保護者の支払いが困難な場合は、保護者や学校長から相談を受け、直接学校に支払う方法も行なっています。

子育て・教育

実践的防災教育の推進を

問 伊藤美 国は東日本大震災の教訓を踏まえ、新たな防災教育の指導・開発・普及を行なうモデル校を募集する。今後首都圏でも震度七が想定され、防災教育は喫緊の課題と考えるが。

答 大変重要な事業と認識しています。文部科学省からの通知後に研究します。

中学校でのAED実習について

問 山田 中学校でAED（体外式除細動器）の実習をすることにしています。

答 中学二年の保健体育の授業で、応急手当の意義や心肺蘇生法的重要性を学んでいます。

自転車の安全対策

す。AEDについても、学習の機会を検討できればと考えています。

問 堀口 小中高生への自転車任意保険加入促進と、十三歳未満のヘルメット着用義務についての啓発を。

答 自転車事故による高額の賠償責任が生じることを、保護者会等で十分説明し啓発していきます。ヘルメットの着用は保護者の努力義務です。自転車の安全意識を高め、ヘルメット着用義務の啓発に一層取り組んでいきます。

自転車にも保険は必要

問 田村 自転車事故で加害者となれば、子どもといえども厳しい責任が問われる。保

護者の中には、学校の保険で対応できると考える人もいますが、対応可能か。

答 スポーツ振興保険であり、下校後の管理下外の保証はしません。

問 保護者への対応は。

答 自転車事故による賠償責任が生じることを、保護者会等で啓発していきます。

小中学校の体育館内や屋外トイレについて

問 島田 体育館は、災害時の避難所となる。体育館や屋外トイレの今後の整備方針は。

答 まずは校舎の改修を優先し、計画的に実施していきたい。また、洋式化への改修も引き続き検討していきます。

全小中学校で金環日食観察会を

問 仙田 五月二十一日に、市内の全小中学校で「金環日食観察会」の実施を。

答 金環日食というダイナミックな自然現象を目の当たりにできることは、子どもたちにとってかけがえのない貴重な機会であるとともに、自



日食観察用のメガネで観察中



国立天文台ホームページより